

令和元年度第2回在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議報告書

1. 開催日時 令和元年9月26日(木) 午後2時から4時まで
2. 開催場所 保健福祉センター2階 研修室1
3. 出席者 森谷委員、布施委員、近藤委員、鈴木委員、平野委員、根本委員  
石田委員、福岡委員、福田委員、中野委員(吉田委員後任)、鈴木氏(石戸委員代理)  
事務局 高齢者福祉課 伊藤課長、山本、加藤  
白井駅前地域包括支援センター 渡邊、西白井駅前地域包括支援センター 迫間
4. 傍聴者 3名
5. 次第
  - ・第2回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議  
議題
  - (1)在宅医療・介護連携推進事業の評価指標の設定について
  - (2)在宅医療と介護の連携ICTシステム検討ワーキングの報告
  - (3)第2回在宅医療フォーラムについて
  - (4)課題別ワーキングの取り組み報告
6. 議事 以下の概要のとおり

事務局	○ 第2回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議 委員の交代について報告する。印西警察署生活安全課 吉田課長の異動に伴い、後任の中野課長に交代する。
会長	会長より、あいさつがなされる。
事務局	それでは、議題に移る。 本日の出席委員は、11名。本協議会設置要綱第6条第2項の規定により、過半数に達しているので、議事を進める。
会長	議題1 在宅医療・介護連携推進事業の評価指標の設定についてを議題とする。事務局より説明を求める。
事務局	(事務局より全体説明資料スライドNo.3~8について説明する。) 資料1の項目ごとに説明し、委員から意見を求める。
会長	資料1「住民の目指す姿(最終アウトカム)」欄の「在宅で療養する本人だけでなく」の表現から、在宅医療ありきの印象を強く受ける。望むべきあり方は、在宅医療が決まり事となっている訳ではなく、病院や施設での最期の迎え方もあるので、「在宅」に絞りきれない表現がいいのではないかと。
委員	「在宅」ではなく、「在宅など」と変更してはどうか。在宅と限定せず、施設なども含めた意味の表現として。
会長	他の委員の意見はいかがか。 (特になし)
事務局	「在宅など」の表現に修正する。

事務局	「サービスの目標（中間アウトカム）」の表現について、意見を伺いたい。日常の療養体制と急変時の体制の2つをひとつにまとめた表現としたが、このことについて違和感はあるか。
会長	委員から意見はあるか。 (特になし)
会長	サービスの目標（中間アウトカム）の他の項目については、意見はあるか。 (特になし)
事務局	事業の目標（初期アウトカム）の内容について説明する。サービスの目標（中間アウトカム）毎に意見を伺いたい。 まず「日常の療養体制、急変時の体制が整っている」ことを達成するための事業目標7項目についていかがか。指標案を作成後に、介護体制に関わる事業目標が入っていないことに気付いた。委員から意見を伺いたい。
委員	「ケアマネや訪問介護などの介護体制が充実する」という目標を追加してはどうか。介護事業所が無いと、必要な人にサービスを提供できなくなり、日常の療養体制に大きな影響を及ぼすことになる。
事務局	事業目標に追加する。他にあるか。
委員	「急変時の対応、情報共有に関して、消防署・介護施設・在宅療養関係者等の連携が促進する」という目標について、介護施設職員や在宅介護している家族は急変時に慌ててしまい何をどうすべきか分からなくなる場面が多々ある。急変時対応のマニュアル等の作成・普及に向けた取り組みがされることで、連携の促進につながると考える。
会長	今のご意見は、事業の目標（初期アウトカム）を評価するストラクチャー・プロセス指標に具体的な取り組み成果の文言として盛り込むことでよろしいか。
委員	はい。
事務局	次に、ストラクチャー・プロセス指標(案)について意見を伺いたい。
委員	指標(案)については、後からでも追加できるのか。訪問診療については、この指標を採用し、今後必要だと思う指標があれば検討してはどうか。
会長	訪問看護の指標に、実施人数と実施回数を加えた方がよい。
委員	実施人数については、実人数ではなく、延べ人数を基本とした方がよい。また実施人数よりは実施回数の方が分かりやすい。また、歯科診療については居宅療養管理指導の実施回数を追加した方がよい。
委員	薬局の機能として無菌調剤の対応可否も体制充実の評価になる。現状、対応できる市内薬局は無いが。また、薬局も夜間休日対応をするので、夜間休日対応回数が指標にあるとよい。千葉医療ナビには、医科・歯科・薬局の様々な実績報告が掲載されているので、公的な指標として使用することができるのではないか。
事務局	在宅医療後方支援体制に関する評価指標案について、意見はあるか。 (特になし)
事務局	多職種での情報共有が促進することについての指標だが、情報共有システム検討ワーキングで協議している最中であり、指標の設定は先送りしてもよいか。 (意見なし)

事務局 会長	急変時の対応、情報共有に関する評価指標案について、意見はあるか。 介護施設用救急情報シートを知っている介護職員の割合については、どういう手法で把握するのか。
事務局	介護施設職員を対象にアンケート調査を行う予定。 (他に意見はなし)
事務局	事業の目標（初期アウトカム）を達成するための事業（アウトプット）について、記載されている事業の他に新規事業の提案はあるか。 (意見なし)
事務局	続いて、「入退院時支援の体制が整っている」（中間アウトカム）達成に向けた事業の目標（初期アウトカム）・指標案について意見を伺いたい。
委員	退院時共同指導料は、算定の条件があるため退院する人全員が対象になるわけではない。退院時共同指導料を算定していなくても、連携の実績がある現状を理解した上で、指標として採用したほうがよい。
事務局	指標案から削除したほうがいいのか。
委員	退院時連携の実態を示す一つの目安として残しておくのは構わない。歯科においても共同指導料の算定頻度はかなり少ない。
委員	関係者向けアンケート調査を行った方が、現実的な連携の状況を把握ができると思う。入退院時連携が行えているか等、5段階評価することで指標になるのではないか。
事務局	関係者向けアンケートの具体的な項目については、入退院時連携ワーキングで検討を進めていきたい。
事務局	続いて、「看取りの体制が整っている」（中間アウトカム）達成に向けた事業の目標（初期アウトカム）・指標案について意見を伺いたい。在宅看取り数・率についてだが、指標として採用している自治体では死亡個票データを入手した上で業者に委託して分析を行っている。
委員	死亡個票の分析は、もっとも確実に在宅看取りの実態を把握できる方法ではあるが、現実には在宅医療を受けている患者が自宅で急逝し、在宅医と連絡がつかないなどの理由で警察が介入する事態となり、場合によっては検死となることもある。
会長	今の時点では、入手し易いデータから在宅看取りの推移が把握できればいいのではないか。
事務局	「在宅医療にかかるデータ集」から把握できる自宅死（異常死も含まれる）の件数を指標として残し、在宅看取り数・率は指標から削除することでよろしいか。 (全員、異議なし)
事務局	続いて、「住民が望む生き方を選択でき、専門職と共に考えることができている」（中間アウトカム）達成に向けた事業の目標（初期アウトカム）・指標案について意見を伺いたい。

会長 事務局	<p>終活支援ノートの配布実績を指標に加えてはどうか。</p> <p>ノートは、手続き不要で配布するため、正確な配布実績の把握が難しい。制作した冊数の残部で把握することになるため、指標として採用するか否かは、課内で検討したい。</p>
事務局	<p>続いて、「多職種連携が強化され、在宅療養の支援体制が充実している」（中間アウトカム）達成に向けた事業の目標（初期アウトカム）・指標案について意見を伺いたい。</p> <p>（特になし）</p>
事務局	<p>本日頂いた意見を反映させた上で、次回の協議会で再度提示したい。</p>
会長 事務局 会長	<p>議題2 在宅医療と介護の連携 ICTシステム検討ワーキングの報告を議題とする。事務局より説明を求める。</p> <p>（事務局より全体説明資料スライドNo.9～12について説明する。）</p> <p>委員から意見はあるか。</p> <p>（特になし）</p>
事務局	<p>ICT検討ワーキングは次回10月24日に開催予定。</p>
会長 事務局	<p>議題3 第2回在宅医療フォーラムについてを議題とする。事務局より説明を求める。</p> <p>（事務局より全体説明資料スライドNo.13～15について説明する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のテーマは、「アドバンスケアプランニング」。第1部では、森谷会長による講演、市民啓発ワーキングメンバーによる寸劇を予定。</li> <li>・第2部では、昨年度の企画をベースにするが、今年度は福祉用具の展示を新たに行う予定。</li> <li>・第2部の相談・展示コーナーへの訪問歯科診療・訪問看護ステーションの参加について意見を伺いたい。</li> </ul>
委員 委員	<p>マンパワーの関係もあり、歯科医師会の参加は見合わせたい。</p> <p>訪問看護ステーション所長と相談の上で、後日回答する。</p>
会長 事務局	<p>議題4 課題別ワーキングの取り組み報告を議題とする。事務局より説明を求める。</p> <p>（事務局より全体説明資料スライドNo.16～28について説明する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療・救急医療連携ワーキングについて、今年度は介護施設における急変時対応・看取りの体制について検討している。これまでに3回開催し、課題の抽出とワーキングで取り組めることについて話し合っている。</li> <li>・救急医療情報キットの活用実績は、昨年度末が13.8%だったが今年8月末時点では21.4%に上昇している。</li> </ul>
委員	<p>キット活用増えてはいるが、まだ全体の2割しか活用されていないという見方もできる。現場の立場からすると普及が進んでいないという印象を持っている。</p>

事務局	普及に向けて、地道に取り組んでいきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携研修企画ワーキングでは、第1～3回研修会テーマが決定したことを報告。併せて、第1回研修会の開催報告を行う。</li> <li>・市民啓発ワーキングでは、しろい在宅医療フォーラムの企画に取り組んでいることを報告。また、昨年度の同ワーキングで検討した「終活支援ノート」の完成報告を行う。</li> <li>・入退院時連携ワーキングでは、入退院時連携ルール <b>BOOK</b> が完成に至ったことと、ルール <b>BOOK</b> の普及方法について検討していることを報告。</li> <li>・認知症対策ワーキングでは、らくらく介護教室の企画・実施、ふるさとまつりでの認知症周知啓発の内容について報告。</li> </ul>
会長	他に意見はあるか。 (特になし)
事務局	以上で、本日の会議を終了する。